

・公民館への専任職員の配置について ・姉妹・友好提携について



西島 昌和

公民館のあり方検討会から、公民館の方向性として各活動内容が検討され、広範で多岐にわたる機能が求められる公民館の担うべき重要な役割から、専任職員を派遣する方向で答申されました。

が、配置すべき努力をします。

問 防災拠点として、自主防との結びつきなど運用機能面でのどのように強化されるのか

答 公民館の位置づけは、自主防と市災害対策本部の間立ち、情報収集と情報伝達を行う方面隊であり、施設を地域の避難場所として活用する事であり、そのための職員配置とともに、いざ災害となった時、公民館と自主防が連携を取り対応が図れるよう防災活動を見直してまいります。

問 公民館のあり方をどのように位置づけたのか、又専任職員の配置は

自主防と市災害対策本部の間立ち、情報収集と情報伝達を行う方面隊であり、施設を地域の避難場所として活用する事であり、そのための職員配置とともに、いざ災害となった時、公民館と自主防が連携を取り対応が図れるよう防災活動を見直してまいります。

答 公民館は地域住民に密着した施設として、生涯学習活動、防災活動、少子高齢化活動、地域活動を進める事が必要であり、この事は、コミュニティ及び防災の拠点としての公民館のあり方であり、多岐にわたる活動を進めていくには、館長と臨時職員では対応が困難であり、専任職員配置は必要と認識しています。行政改革行動計画を踏まえ厳しい状況です

問 姉妹・友好提携についてどのように考えるか

答 姉妹・友好提携については、今後御前崎市が何を目的に姉妹・友好提携を行うのか、そのテーマを充分検討し明確にした上で取り組む必要があります。市民の皆様のご意見を伺いつつ検討し取り組んでまいります。国内交流について長野県高森町と観光産業交流を継続しており、先日先方の熊谷町長より正式に友好都市提携締結の要請がありました。交流の歴史やご縁を大切に考え、正式に提携調印したいと考えております。

した上で取り組む必要があります。市民の皆様のご意見を伺いつつ検討し取り組んでまいります。国内交流について長野県高森町と観光産業交流を継続しており、先日先方の熊谷町長より正式に友好都市提携締結の要請がありました。交流の歴史やご縁を大切に考え、正式に提携調印したいと考えております。

問 姉妹・友好提携についてどのように考えるか

答 姉妹・友好提携については、今後御前崎市が何を目的に姉妹・友好提携を行うのか、そのテーマを充分検討し明確にした上で取り組む必要があります。市民の皆様のご意見を伺いつつ検討し取り組んでまいります。国内交流について長野県高森町と観光産業交流を継続しており、先日先方の熊谷町長より正式に友好都市提携締結の要請がありました。交流の歴史やご縁を大切に考え、正式に提携調印したいと考えております。



正月飾り作り



おたっしや教室

2007年問題は

住民サービス維持向上

問 当市の団塊世代職員
の退職者数、及びベテラン職員が退職したときの
次世代幹部へのノウハウ
継承や住民サービス維持
向上への取り組みは

答 今回の行政改革を初めとして今後の職員採用にもプロジェクトをつくりながら専門職等の採用も視野に考えます。

団塊世代受入対策

問 地域社会では少子高齢化を迎え教育、福祉、環境、まちづくり等多くの問題を抱えています。市民協働は避けられませんが今まで培ってきた分
析力、コーディネート力、
人脈を生かせる団塊世代
が地域で活躍できる場
作りに
は

答 全国の団塊世代退職時には多くの人口があるわけですから空港等の整備に伴い、御前崎へ来る方法をPRする必要はあります。御前崎の海岸で多くの若者がサーフィン等で楽しんでいきます。彼等の事も考えながら今後しっかりしたPRを重ね、皆様のご意見をいただきながら検討します。

問 これからの拡大した業務に対応するために、若い方を中心にした全庁的なプロジェクトチーム
が必要は

答 荒廃農地の活用による砂地農業で生産される農作物や海の水産資源を活用した「食と健康」「体験観光」等の商品観光づくりを行うため、庁舎内で荒廃農地再生対策検討会を設置し事業化のプランづくりを進めていきます。事業化することによ

り「団塊世代」の雇用やUターン、Iターン者の就業機会の創出に繋がるものと思います。

り「団塊世代」の雇用やUターン、Iターン者の就業機会の創出に繋がるものと思います。



若杉 泰彦

